

研究・調査報告書

報告書番号	担当
118	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and blood pressure in the adult US population: assessment of gender-related effects. 米国成人における飲酒量と血圧の関連、性別の検討	
執筆者	
McFarlane SI, von Gizycki H, Salifu M, Deshmukh M, Manieram M, Gebreegziabher Y, Gliwa AA, Bordia S, Shah S, Sowers JR.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Hypertens. 2007 May;25(5):965-70.	
キーワード	
アルコール、血圧、性	
要 旨	
<p>目的： 米国を代表する集団で飲酒と血圧の関連を性別に検討する。</p> <p>方法： National Health and Nutritional Survey 1999-2000 の対象者で高血圧の危険因子が血圧に与える影響を検討した。</p> <p>結果： 20歳以上の5448人のうち2650名(48.7%)が過去の1年間に、1日にアルコールを10g以上(10gを1 drink と定義)摂取しており、これらの者を対象とした。対象者の平均年齢は46.9歳、body mass index (BMI, 体重/身長²)の平均は24.8kg/m²であった。女性は1257名(47.4%)であった。平均収縮期血圧は124.3mmHg、拡張期血圧は72.7mmHgであった。高血圧が21.1%に、糖尿病が5.1%にみられ、現在喫煙者は39.7%であった。収縮期血圧に関連していたのはBMI、人種、性、糖尿病であった。飲酒と血圧の関連は男女で異なっていた(相互作用のP値:0.02)。そのため飲酒と血圧の関連について追加解析したところ男性では1日1drink 群と3drink 群、4drink 群で血圧値に差を認めた。一方女性ではそのような関連は見られなかった。</p> <p>結論： 過去の報告と同様に1日2drink までの飲酒は血圧に影響を与えなかった。飲酒と血圧の関連は男女で異なっており、男性でのみ飲酒量と血圧値の関連が認められた。</p>	